

平成23年12月9日
品川区まちづくりマスタープラン
策定委員会

品川区まちづくりマスタープランについてのアンケート(概要)

目次

品川区まちづくりマスタープランについてのアンケート概要	1
1. 回答者について	1
2. 全体のまちづくり	1
3. 市街地整備・防災	3
4. 交通環境	4
5. 住宅・住環境	4
6. 水とみどり・まちの景観	7
7. まちづくり活動	7
8. 自由意見	8

品川区まちづくりマスタープランについてのアンケート概要

調査の目的

まちづくりに関する区民の意見・評価や、今後のまちづくりに対する意識・意向等を把握し、まちづくりマスタープランへ反映させることを目的とする。(都市計画法第18条の2第2項:市町村は、基本方針を定めようとするときは、あらかじめ、公聴会の開催等住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。)

調査項目

回答者の属性、品川区全体のまちづくりについて、まちづくりの個別テーマについて(市街地整備・防災、交通環境、住宅・住環境、水とみどり・景観、まちづくり活動)、自由意見

調査方法

(1)調査対象・標本数

合計2,799人を対象としてアンケート等の郵送配布、郵送回収にて実施。内訳は以下の通り。
 一般区民:2,500人(品川、大崎、大井、荏原、八潮の5地区で各500人=2,500人を対象とした。)
 区政モニター:299人(区政モニターおよび経験者299人を対象とした。)

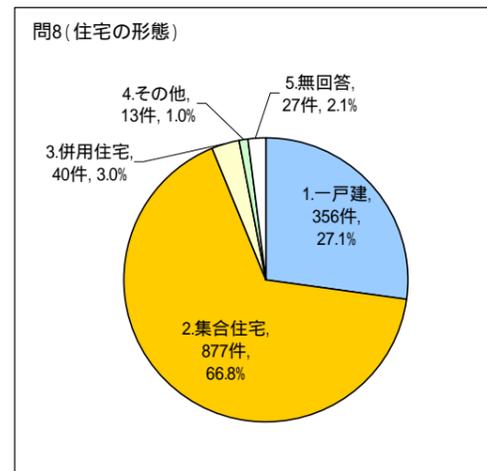
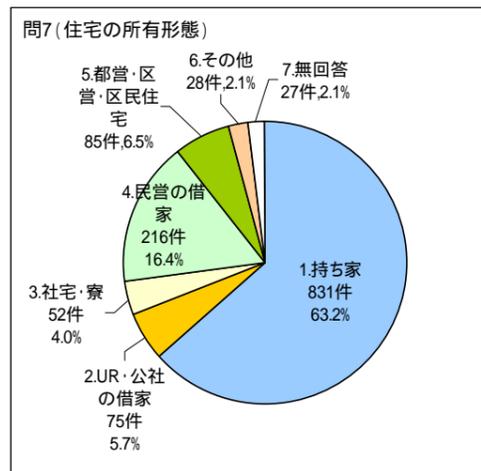
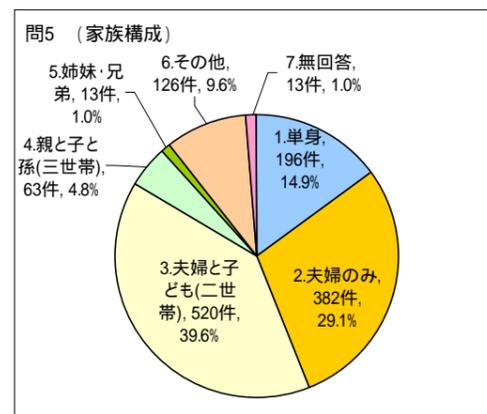
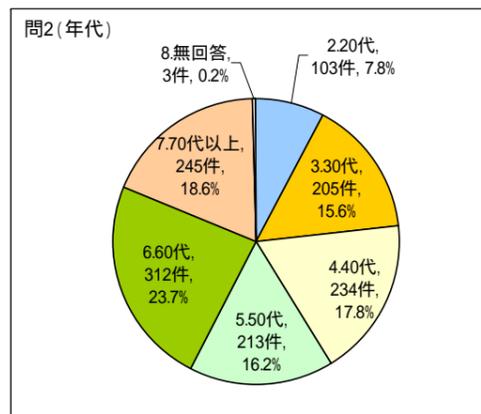
(2)アンケートの工程

- ・6月17日(金)発送
- ・6月23日(木)到着確認書発送
- ・6月30日(木)回収期限

回収数および回収率

・1,315通回収(47.0%) (一般区民 : 1,075通(43.0%)、区政モニター : 240通(80.3%))

1. 回答者について



平成23年11月22日
マスタープラン担当

2. 全体のまちづくり

問11 品川区では、平成13年に策定した品川区市街地整備基本方針において、5つの目標をもとに、まちづくりを行ってきました。そこで、これらの**まちづくりに関する項目の現在の満足度と今後の重要度**について、それぞれ該当するものを下表のなかから1つ選んで、番号に をつけてください。

結果の概要

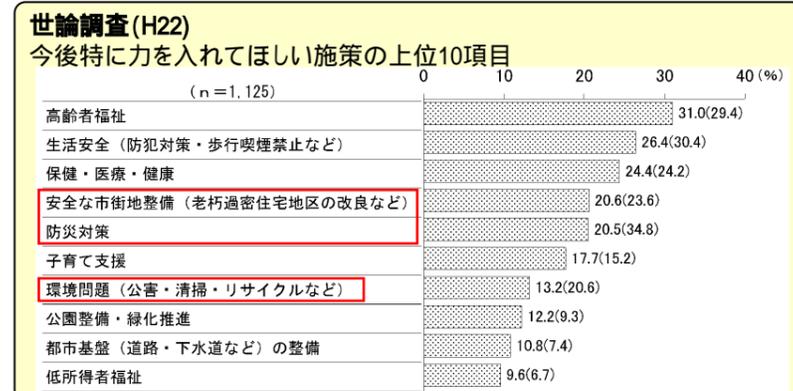
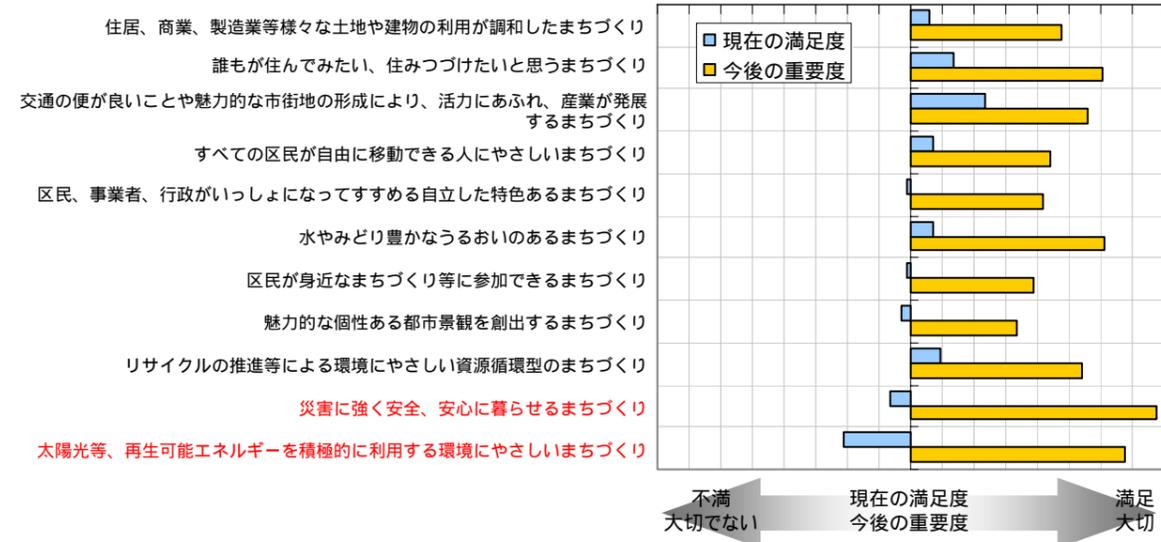
<現在の満足度>

・「交通の便が良いことや魅力的な市街地の形成により、活力にあふれ、産業が発展するまちづくり」「誰もが住んでみたい、すみつけたいと思うまちづくり」で高い評価となっている。これらの要因としては、りんかい線の開通や大崎駅周辺などの市街地再開発事業の進展が挙げられる。

・「災害に強く安全、安心に暮らせるまちづくり」「太陽光等、再生可能エネルギーを積極的に利用する環境にやさしいまちづくり」で低い評価となっている。これらの要因としては、3.11の東日本大震災による防災への関心や原発事故による再生可能エネルギーへの関心の高まりが挙げられる。

<今後の重要度>

・「災害に強く安全、安心に暮らせるまちづくり」「誰もが住んでみたい、すみつけたいと思うまちづくり」が高い評価となっている。H22世論調査と比較すると、「安全な市街地整備」「防災対策」「環境問題」への関心が非常に高くなっている。これらの要因としては、東日本大震災による防災や再生可能エネルギーへの関心の高まりが挙げられる。



問12 あなたが**お住まいの地域に今後必要なこと**は、何だとお考えですか。該当するものを**2つまで**選んで、番号に をつけてください。

結果の概要

<全体の傾向>

•今後必要なことは、「災害からの安全・安心」「静かで落ち着いた住環境」「みどり豊かな環境」の順となっている。

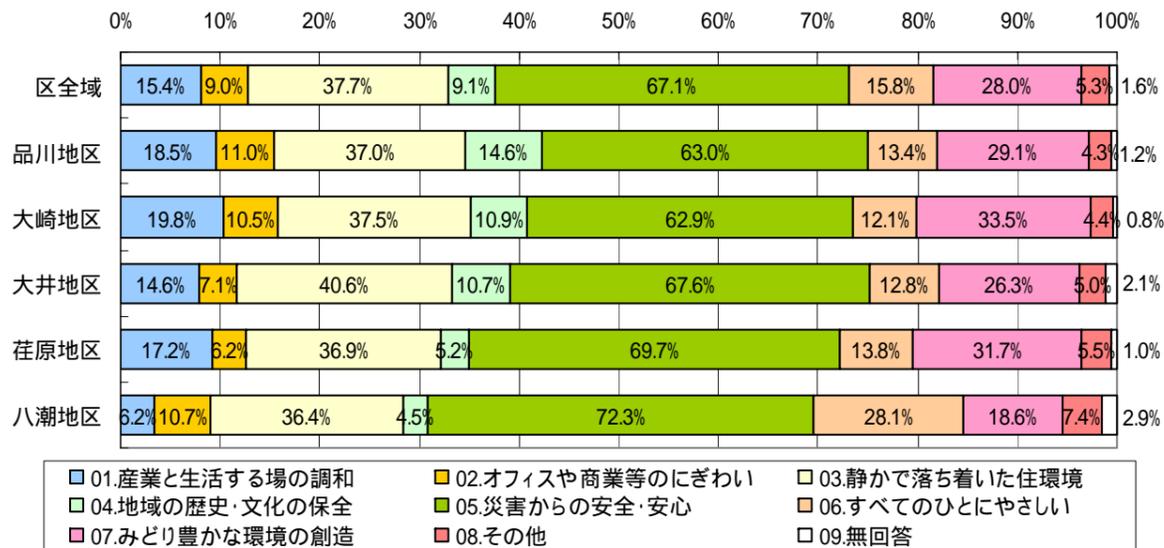
<地域のなかで特質すべき事項>

•副都心として業務系の土地利用が比較的多い大崎地区では、「産業と生活する場の調和」が多くなっている。

•旧東海道や神社などが多く分布する品川地区では、「地域の歴史・文化の保全」が多くなっている。

•耕地整理区域で密集市街地が広範囲に分布する荏原地区では、「災害からの安全・安心」が多くなっている。

•八潮地区でも「災害からの安全・安心」が非常に多くなっているが、これは八潮地区が臨海部に位置しており、津波の影響を懸念するためと思われる。また、高齢化の進展が顕著であることからバリアフリーなどへの関心が高いと思われ「すべてのひとにやさしい」も多くなっている。



グラフ内の数字は、各地区の回答者数に対する回答数の割合

問14 品川区では、以下の地域について、拠点の形成をめざしています。あなたは普段、**これらの地域をどのような目的で利用していますか**。該当するものを**下表のなかからすべて選んで**、番号に をつけてください。

結果の概要

<全体の傾向>

「品川区市街地整備基本方針」に位置付けられている各拠点の区民の利用状況は、大井町駅周辺、品川駅周辺が高く、西大井駅周辺、旗の台駅周辺の利用は少ない。

<地域のなかで特質すべき事項>

•区民にとって買い物や娯楽、飲食など日常生活での利用は、大井町駅周辺が非常に多く、区民にとっての中心的な拠点であるといえる。

•都市活性化拠点である大崎駅周辺は、業務系の土地利用が多いことや東京都の副都心として広域的な拠点であることから、日常的な区民の利用形態としては、大井町駅周辺などに比べて利用が少なくなっている。

•品川シーサイド駅周辺は、大規模集客施設の立地などから、買い物での利用目的が多くなっている。

•武蔵小山駅周辺は、品川シーサイド駅周辺を除く地域生活拠点のなかで、最も買い物の割合が高く、地域生活拠点のなかでも拠点性は高いといえる。

•大井町駅周辺は東芝病院、旗の台駅周辺は昭和大学病院、五反田駅周辺はNTT東日本関東病院などの立地から、医療・福祉関係での利用が多くなっている。

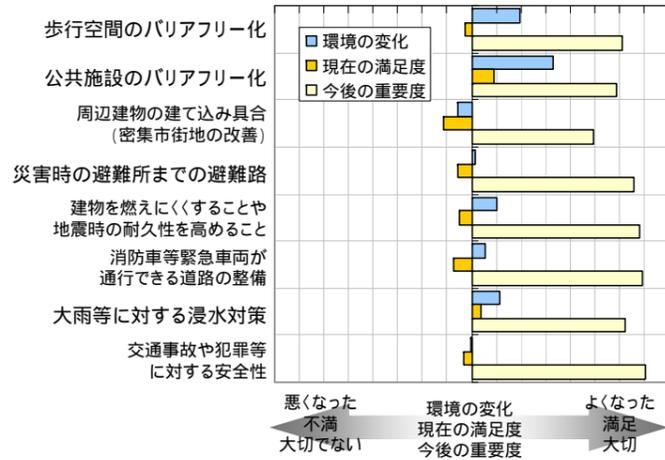
利用目的	下段: 割合 (回答者数に対する利用者数の割合)												回答者数
	天王洲 アイランド 駅周辺	大崎駅 周辺	五反田 駅周辺	東五反 田地区	大井町 駅周辺	品川駅 周辺	品川シー サイド 駅周辺	目黒駅 周辺	西大井 駅周辺	大森駅 周辺	武蔵小 山駅周 辺	旗の台 駅周辺	
01.買い物	56 4.3%	209 15.9%	329 25.0%	97 7.4%	980 74.5%	492 37.4%	527 40.1%	262 19.9%	72 5.5%	455 34.6%	446 33.9%	128 9.7%	1,315
02.娯楽・文化・スポーツ 活動	131 10.0%	129 9.8%	125 9.5%	77 5.9%	241 18.3%	288 21.9%	90 6.8%	108 8.2%	66 5.0%	120 9.1%	77 5.9%	54 4.1%	1,315
03.飲食	156 11.9%	249 18.9%	343 26.1%	119 9.0%	545 41.4%	545 41.4%	227 17.3%	273 20.8%	61 4.6%	306 23.3%	190 14.4%	98 7.5%	1,315
04.通勤・通学先	25 1.9%	95 7.2%	82 6.2%	34 2.6%	103 7.8%	162 12.3%	44 3.3%	42 3.2%	39 3.0%	44 3.3%	19 1.4%	26 2.0%	1,315
05.医療・福祉関係	7 0.5%	84 6.4%	132 10.0%	34 2.6%	159 12.1%	38 2.9%	43 3.3%	41 3.1%	28 2.1%	71 5.4%	31 2.4%	148 11.3%	1,315
06.居住している	16 1.2%	93 7.1%	64 4.9%	37 2.8%	140 10.6%	28 2.1%	67 5.1%	39 3.0%	70 5.3%	54 4.1%	70 5.3%	46 3.5%	1,315
07.利用しない	868 66.0%	663 50.4%	512 38.9%	885 67.3%	169 12.9%	302 23.0%	609 46.3%	729 55.4%	996 75.7%	647 49.2%	739 56.2%	896 68.1%	1,315

現計画の将来都市構造図



3. 市街地整備・防災

問16 市街地整備・防災について、「あなたの周りの環境の変化」、「現在の満足度」、「今後の重要度」についておうかがいします。各項目について、それぞれ該当するものを1つ選び、番号に をつけてください。



結果の概要

•バリアフリー化については非常に改善しているという評価であるが、満足度は低くなっており、市街地整備については、高齢化社会の進展等によりバリアフリー化へのニーズは高いと思われる。

•密集住宅市街地整備促進事業などの実施により、着実に改善はしているが、東日本大震災の発生などにより、区民の災害に対する危機意識が高まっていることから、「周辺建物の建て込み具合」の環境の変化に関する評価は悪く、さらに、満足度も最も低い。よって、密集市街地の改善は、今後も重要な施策として継続していく必要があるといえる。

•その他の「災害時の避難所までの避難路」や「建物を燃えにくくすることや地震時の耐久性を高めること」「消防車等緊急車両が通行できる道路整備」などの防災関連の項目については、良くなったという評価ではあるが、満足度は低く、重要度が高くなっており、区民の関心が非常に高まっている。

•「大雨等に対する浸水対策」は、世論調査と同様、普通より多少よい方向の評価となっている。また、「交通事故や犯罪等に対する安全性」も世論調査と同様の傾向であるが、重要度は最も高くなっており、区民の安全に対するニーズは高いと思われる。

問18 あなたがお住まいの地区で、**建物を建てる際のルールとして必要なこと**は何ですか。該当するものを**2つまで**選んで、番号に をつけてください。

結果の概要

<全体の傾向>

•建物を建てる際のルールでは、防災性の向上という観点から「幅員4m未満の狭い道路等の改善」と、景観や住環境の改善という観点から「みどりの多いまちなみ形成」が望まれており、問11において「災害」、「みどり」に関する項目が重要であるとされていることから、区民の意識と一致しており、関心の高さがうかがえる。

<地域のなかで特質すべき事項>

•市街地が広範囲に分布する荏原地区や西大井の密集市街地がある多い地区では、狭隘道路の改善を望む回答が最も多くなっている。

•その他の地区では、みどりの多いまちなみ形成が望まれている。

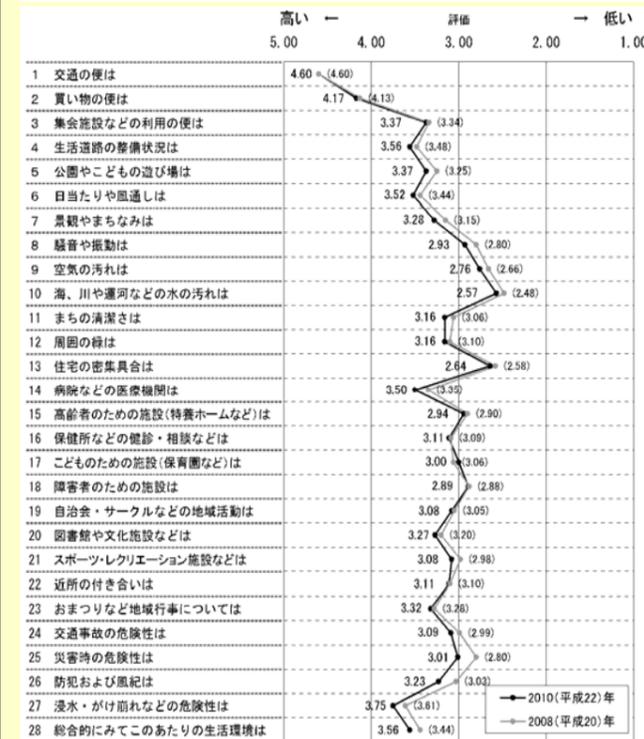
•臨海部の天王洲駅周辺や品川シーサイド駅周辺を含む品川地区や大崎駅周辺を含む大崎地区は、他の地区より高層建物が多い地区であり、建物の高さをそろえることを望む回答が多くなっている。

世論調査(H22)

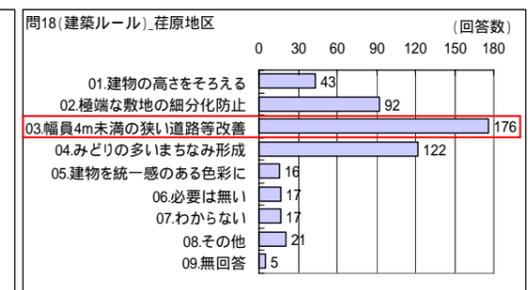
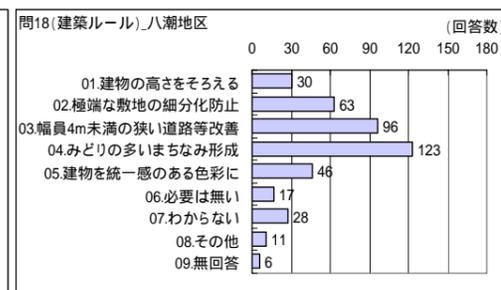
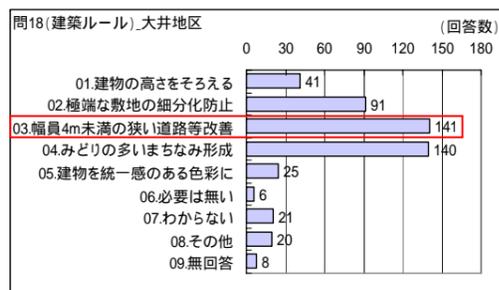
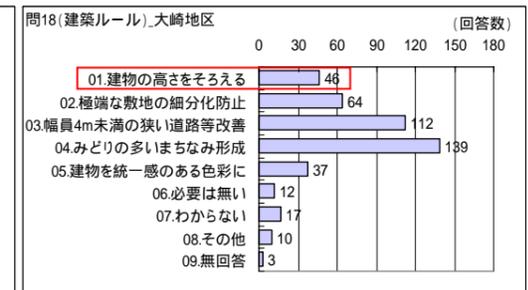
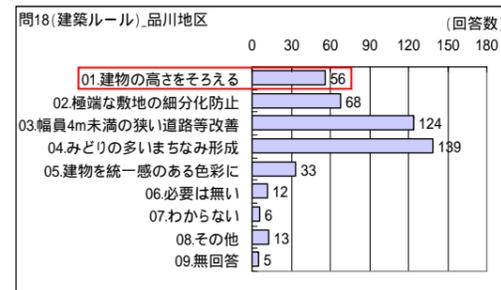
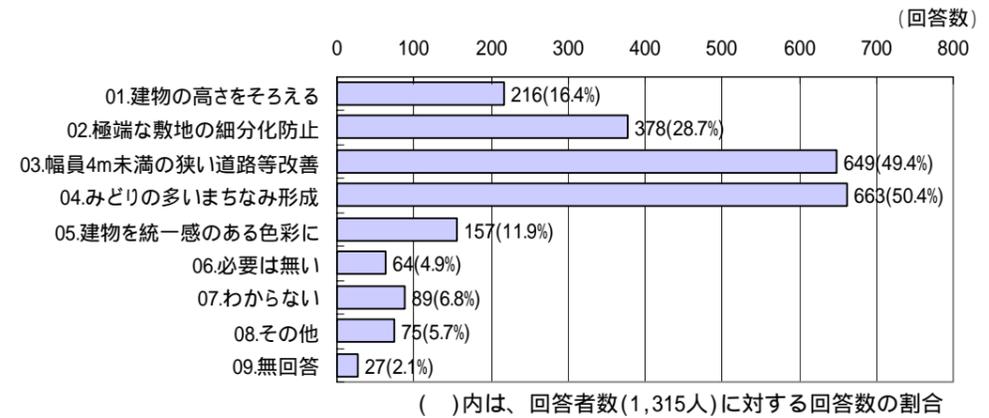
生活環境についての評価

評価点 = 「良い」の回答者数×5点 + 「やや良い」の回答者数×4点 + 「普通」の回答者数×3点 + 「やや悪い」の回答者数×2点 + 「悪い」の回答者数×1点 ÷ 回答者数

この計算方法では、評価点は、1.00点～5.00点の間に分布し、中間点の3.00点を境に、5.00点に近くなるほど評価は高くなり、逆に1.00点に近くなるほど評価は低くなる。



(注) 図中、かっこのない値は今回調査の評価点を、かっこ付きの値は2008(平成20)年の評価点を示す。

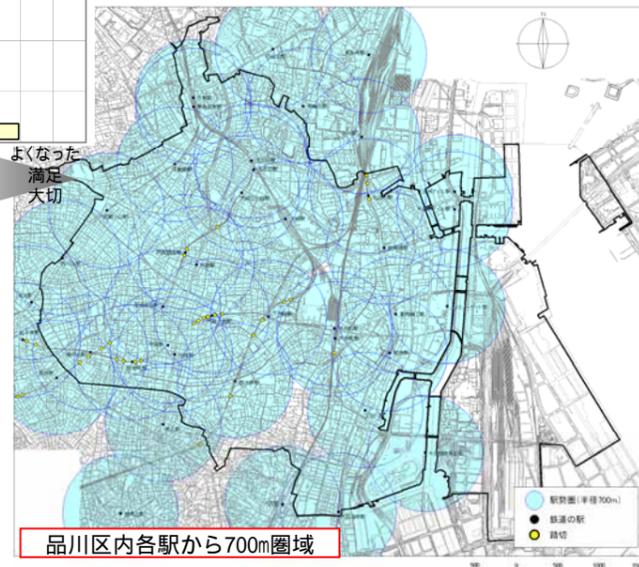
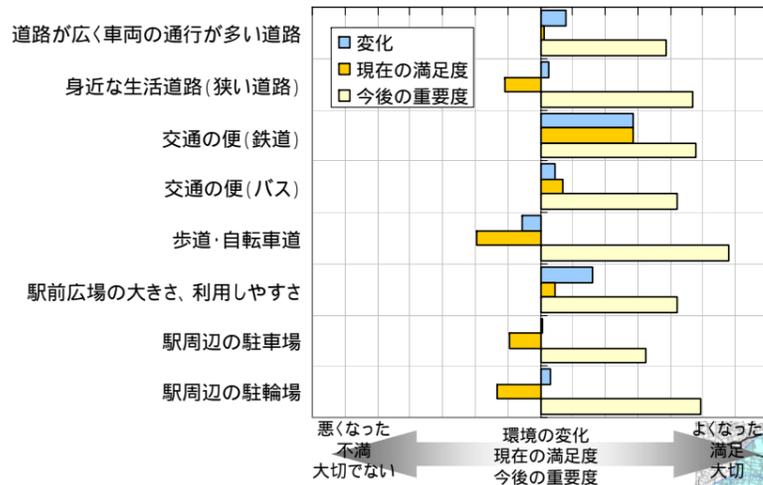


4. 交通環境

問20 あなたがお住まいの地域の交通環境(整備状況等)について、「変化」「現在の満足度」「今後の重要度」についてお答えをお願いします。各項目について、それぞれ該当するものを1つ選び、番号に をつけてください。

結果の概要

- 「道路が広く車両の通行が多い道路」(幹線道路)は、よくなったという評価となっており、重要度も他の項目に比べると低い。
- 「身近な生活道路」については、防災上の面から、満足度が低くなっている。
- 「交通の便(鉄道)」については、りんかい線の開通など、より一層の利便性の向上が図られた効果で、変化、満足度ともに非常に高い評価となっており、区内の鉄道交通便利の良さを反映している。一方、「交通の便(バス)」についても、よくなった、満足という評価となっているが、鉄道の補完的役割であることから、重要度は鉄道よりも低くなっていると思われる。
- 区内の鉄道の駅が徒歩、自転車圏内に位置していることや近年のエコの観点から区民の歩道や自転車道に対する意識は高く、生活道路の整備と合わせて段差の解消や歩道の平坦化を実施しているが、「歩道・自転車道」は非常に低い評価となっている。また、歩行者専用道路や自転車歩行者専用道の整備は、市街地再開発地区や桜新道、立会道路など限られた場所で実施されており、区民の生活の場である居住地での整備促進が望まれている。
- 「駅前広場の大きさ、利用しやすさ」は、東急目黒線の連続立体交差化により駅前広場が整備されていることから、よくなった、満足という評価となっている。
- 「駅周辺の駐車場」「駅周辺の駐輪場」は、区民にとっては不足しているという評価である。特に駐輪場は、自転車道の整備とあわせて重要度が非常に高くなっている。

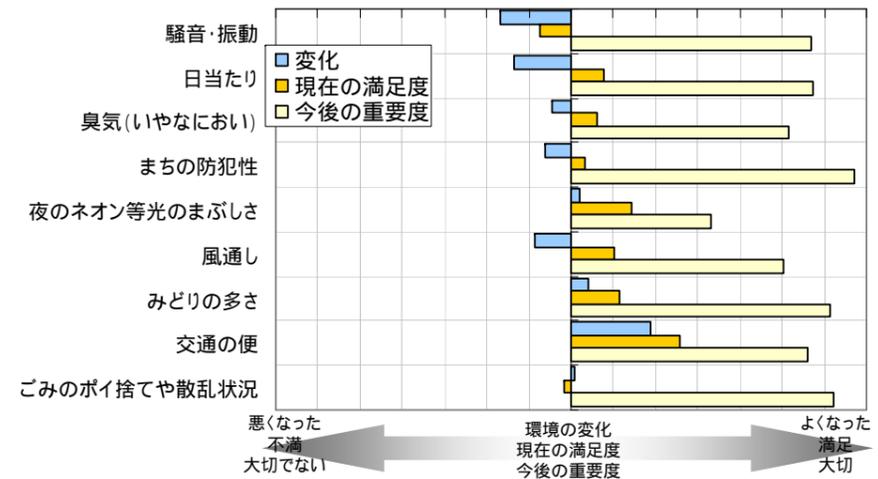


5. 住宅・住環境

問21 あなたの住んでいるお住まいおよびその周辺環境の「変化」「現在の満足度」「今後の重要度」についてお答えをお願いします。各項目について、それぞれ該当するものを1つ選び、番号に をつけてください。

結果の概要

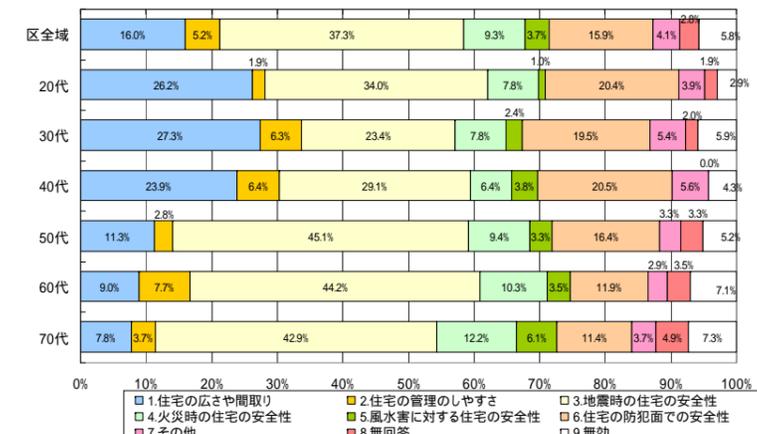
- 住環境の変化は、「騒音・振動」「日当たり」「臭気」「まちの防犯性」「風通し」で悪くなったという評価となっており、特に「日当たり」や「風通し」は、マンションなどの高い建物が増加したことによるものと思われる。ただし、騒音・振動以外は満足度は良い評価となっており、「品川区中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例」などによる健全な生活環境の維持が図られている効果であるといえる。
- また、各項目の満足度は、世論調査(H22)(問16参照)の評価と同様の結果となっている。



また、あなたのお住まいに対してもっとも重要と思われることは何ですか。該当するものを1つ選んで、番号に をつけてください。

結果の概要

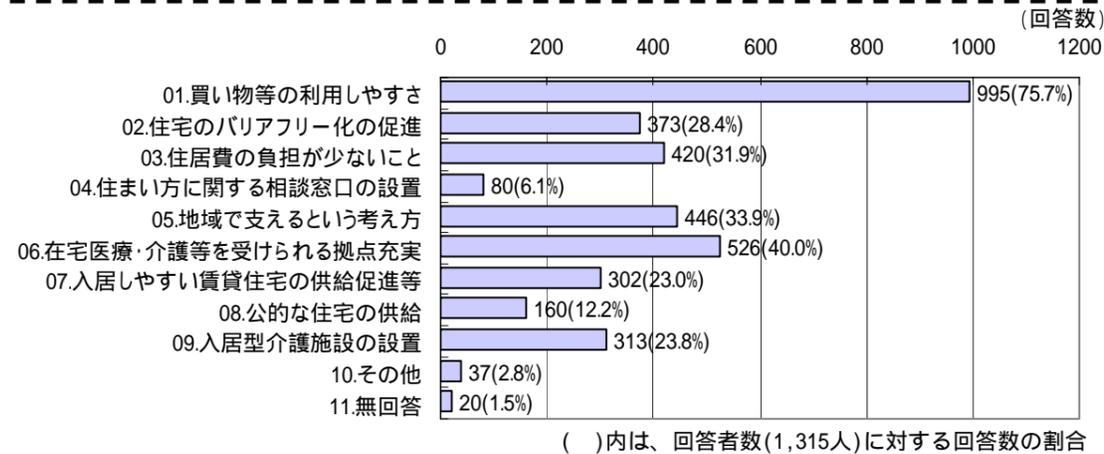
- 住まいで最も重要視されることは、「地震時の住宅の安全性」であり、東日本大震災の影響が反映されている。
- 世代別でみると、20～40代では、住宅の広さや間取りを重要視する回答が多く、居住空間の快適性を重視する傾向がみられる。一方、50代以上では、地震時の安全性が重要視される傾向にある。



問22 高齢社会をむかえて、**今後の住まいや住環境について**、どのようなことが重要だとお考えですか。該当するものを**3つまで**選んで、番号に をつけてください。

結果の概要

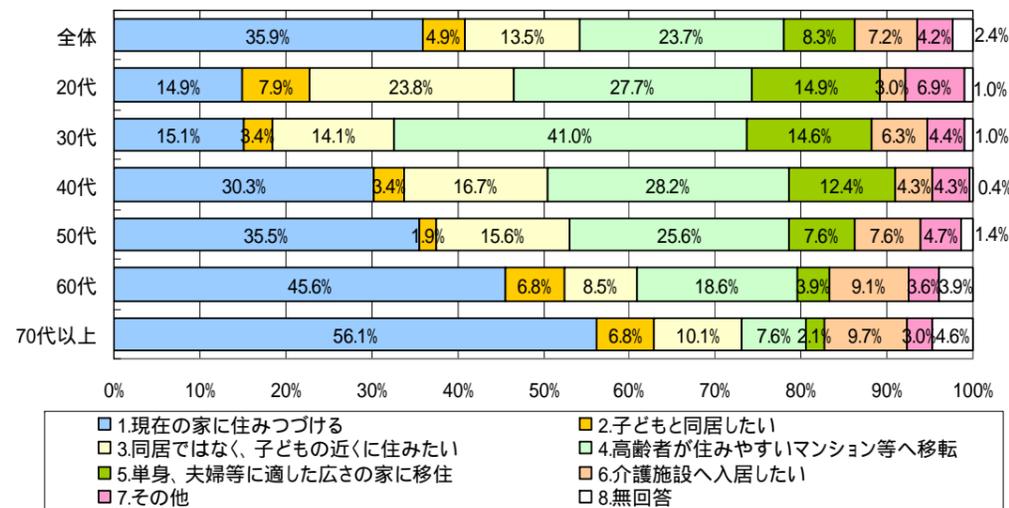
- 今後の住まいや住環境は、「買い物等の利用しやすさ」といった日常生活での利便性が最も多い結果となった。
- 次に多いのは、「在宅医療・介護等を受けられる拠点充実」「地域で支えるという考え方」という、医療・福祉的な側面での回答となっている。
- また、住居に関しては、「住居費の負担が少ないこと」が多くなっている他、住居の形態としては、公的な住宅よりも、「入居しやすい賃貸住宅の供給促進等」や「入居型介護施設の設置」が望まれている。



問23 あなたは今後、**高齢者になったとき(高齢者の方は現在)**、**どのような住まい方を望みますか**。該当するものを**1つ**選んで、番号に をつけてください。

結果の概要

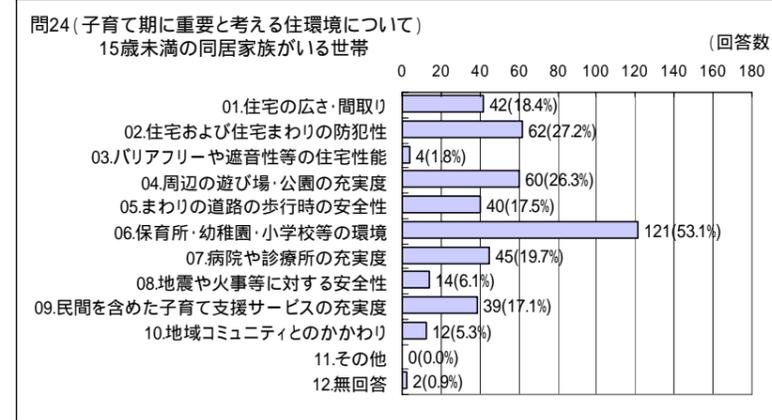
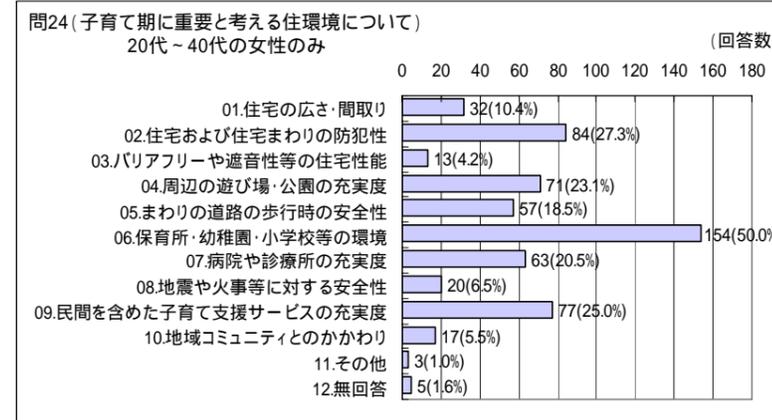
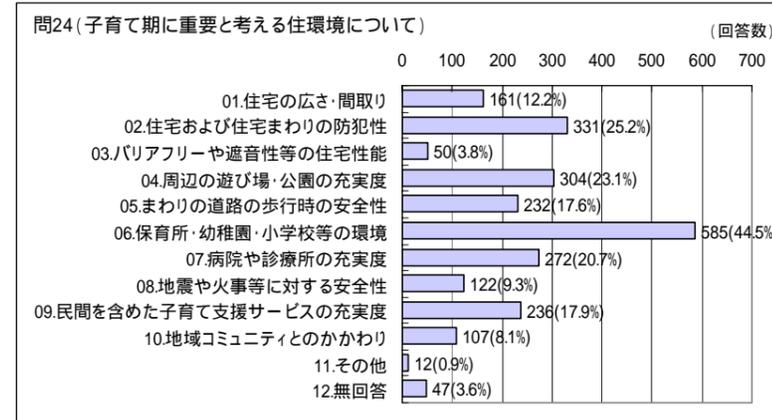
- 年代が高いほど、「現在の家に住みつづける」「介護施設への入居」という回答が多く、若い世代ほど「高齢者が住みやすいマンション等への移転」という転居や近居への希望が多くなっている。
- 高齢になるほど、現在の家に住みつづけたいため、バリアフリー化や耐震化対策が必要である。また、若い世代に高齢者住宅(マンション)のニーズがあることが特徴であり、今後の高齢化社会の進展をふまえ、高齢者住宅など公的住宅の供給を継続していく必要がある。



問24 あなたは**子育て期における住環境について**、**どのようなことが重要だ**とお考えですか。該当するものを**2つまで**選んで、番号に をつけてください。

結果の概要

- 「保育所・幼稚園・小学校等の環境」が重要だという回答が最も多く、次いで、「住宅および住宅まわりの防犯性」「周辺の遊び場・公園等の充実」となっている。
- 20～30代、15歳未満の同居家族がいる世帯と現在子育て中の世帯では、「保育所・幼稚園・小学校等の環境」を重視する割合が高くなっている。



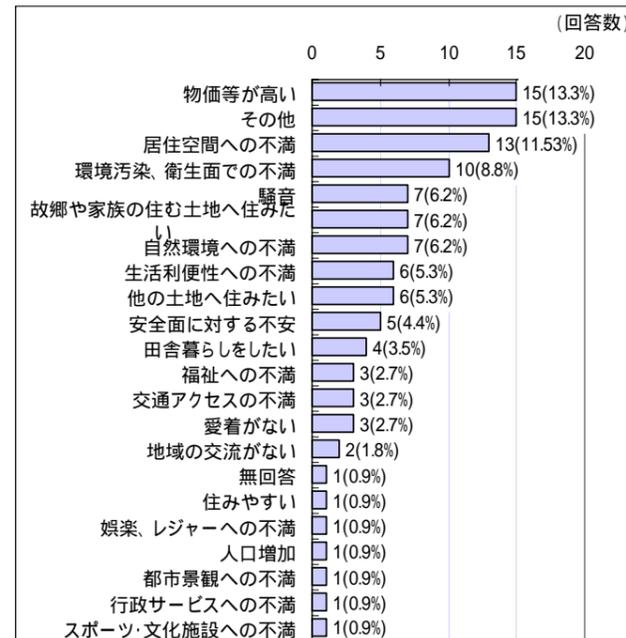
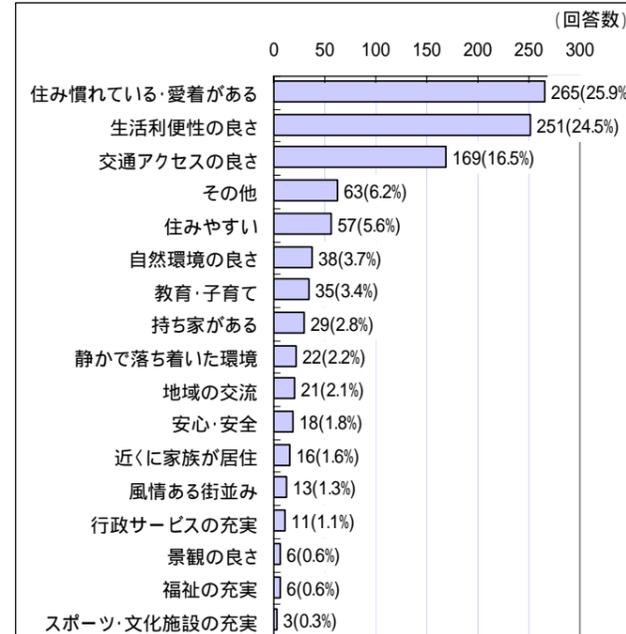
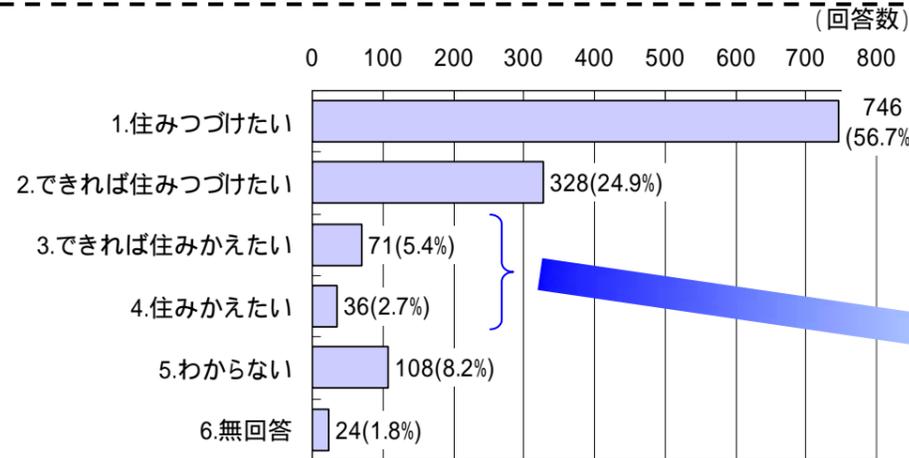
問26 あなたは、**今後も品川区に住みつづけたいとお考えですか。**該当するものを2つまで選んで、番号にをつけてください。また、その理由も()内に記入してください。

結果の概要

•「住みつづけたい」「できれば住みつづけたい」をあわせて81.6%となり、H22世論調査の89.7%（「ずっと住みたい」「当分は住みたい」）より減少しているが、「わからない」「無回答」を除くと、ほぼ同率となり、高い定住意向が伺える。

•「住みつづけたい」「できれば住みつづけたい」の理由をみると、上位は「住み慣れている・愛着がある」「生活利便性の良さ」「交通アクセスの良さ」となり、H22世論調査と同様の結果となっている。このように、定住化の理由については、本区の特徴である住商近接、交通アクセスの良さなどが顕著に反映されている。

•「できれば住みかえたい」「住みかえたい」の理由をみると、「物価等が高い」が最も多くなっており、次いで、「その他」「居住空間への不満」となっている。また、H22世論調査では、周辺環境や住宅、子育てといった項目が上位となっており、1年の間に理由に大きな変化がみられる。これらは、東日本大震災後の経済状況の悪化などによるものと思われる。



世論調査(H22) 定住性について

問2 (すべての方に) これからも品川区に住みたいと思いますか。(○は1つ) n=1,125

- | | | |
|------------------|--------------------------|---------------|
| 1 ずっと住みたい (49.3) | 3 あまり住みたくない(転出したい) (2.8) | 5 わからない (6.5) |
| 2 当分は住みたい (40.4) | 4 すぐにも転出したい (0.8) | 無回答 (0.3) |

(問2で「1」「2」と答えた方に)

問2-1 これからも品川区に住みたいと思う理由は何ですか。(○はいくつでも) n=1,009

- | |
|------------------------------|
| 1 土地になじみや愛着があるから (56.3) |
| 2 仕事(商売)に都合がよいから (31.3) |
| 3 住宅に満足しているから (29.5) |
| 4 周囲の環境がよいから (38.5) |
| 5 交通の便がよいから (82.9) |
| 6 買い物に便利だから (51.5) |
| 7 近所との付き合いがうまくいっているから (19.1) |
| 8 物価が安いから (10.9) |
| 9 まちの雰囲気が好きだから (24.5) |
| 10 こどもを育てやすいから (12.2) |
| 11 こどもの教育環境がよいから (8.6) |
| 12 高齢者・障害者が住みやすいから (8.8) |
| 13 その他(具体的に) (2.2) |
| 14 わからない (0.1) |

(問2で「3」「4」と答えた方に)

問2-2 品川区に住みたくないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも) n=40

- | |
|------------------------------|
| 1 土地になじみや愛着がないから (22.5) |
| 2 仕事(商売)に都合がわるいから (7.5) |
| 3 住宅に不満があるから (27.5) |
| 4 周囲の環境がよくないから (40.0) |
| 5 交通の便がよくないから (10.0) |
| 6 買い物に不便だから (20.0) |
| 7 近所との付き合いがうまくいっていないから (2.5) |
| 8 物価が高いから (17.5) |
| 9 まちの雰囲気が好きでないから (7.5) |
| 10 こどもを育てにくいから (27.5) |
| 11 こどもの教育環境がよくないから (12.5) |
| 12 高齢者・障害者が住みにくいから (22.5) |
| 13 その他(具体的に) (32.5) |
| 14 わからない (0.0) |

6. 水とみどり・まちの景観

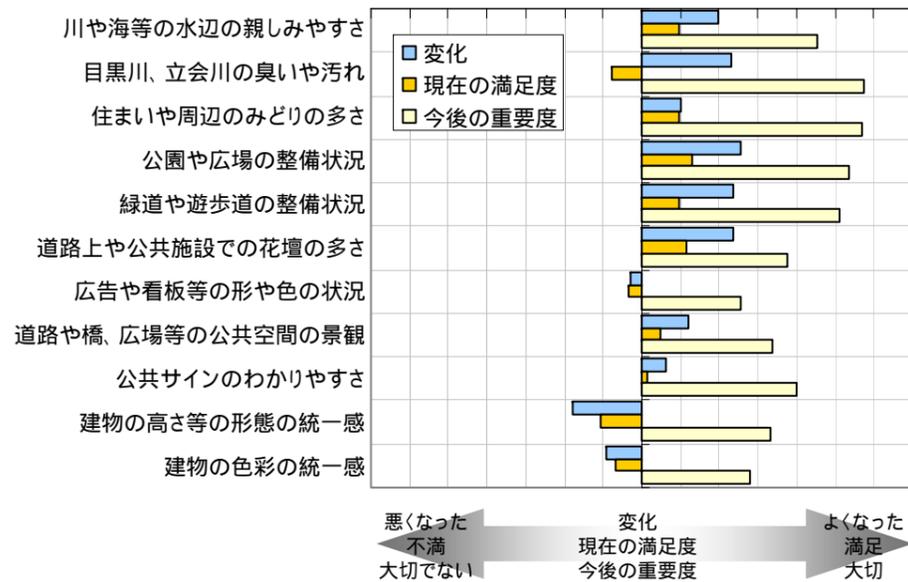
問27 水とみどり・まちの景観について、「変化」「現在の満足度」「今後の重要度」についておうかがいします。各項目について、それぞれ該当するものを1つ選び、番号に をつけてください。

結果の概要

•「川や海等の水辺の親しみやすさ」「目黒川、立会川の臭いや汚れ」「住まいや周辺のみどりの多さ」「公園や広場の整備状況」「緑道や遊歩道の整備状況」「道路上や公共施設での花壇の多さ」は、よくなったという評価であり、満足度も「目黒川、立会川の臭いや汚れ」以外は満足という評価になっている。

•これまでの水とみどりのネットワーク化や公園等の整備、緑化の推進などが評価させた結果となっている。一方、重要度をみると重要度も高く、今後も継続して取り組んでいく必要がある。

•「建物の高さ等の形態の統一感」「建物の色彩の統一感」に関しては、悪くなったという評価であり、さらに満足度でも不満という評価となっている。よって、都市景観のなかでも建物の統一感を形成していくことが重要だと思われる。



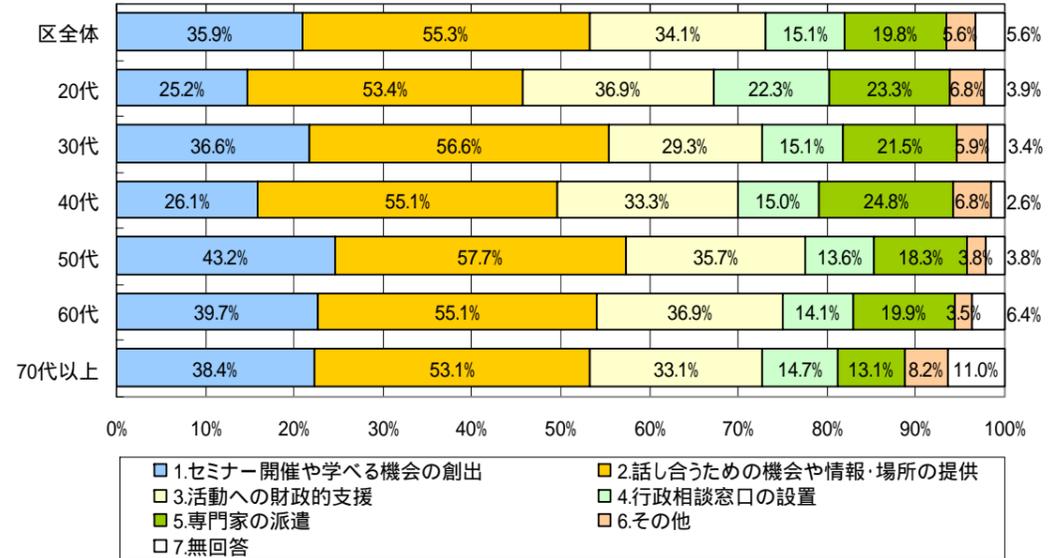
7. まちづくり活動

問29 あなたは住民による主体的なまちづくりにとって、どのようなことが重要だとお考えですか。該当するものを2つまで選んで、番号に をつけてください。

結果の概要

•住民による主体的なまちづくりで重要なことは、「話し合うための機会や情報・場所の提供」が最も多く、次いで、「セミナー開催や学べる機会の創出」「活動への財政的支援」が多くなっている。

•年代別にみても、「話し合うための機会や情報・場所の提供」が最も多くなっている。



グラフ内の数字は、各地区の回答者数に対する回答数の割合

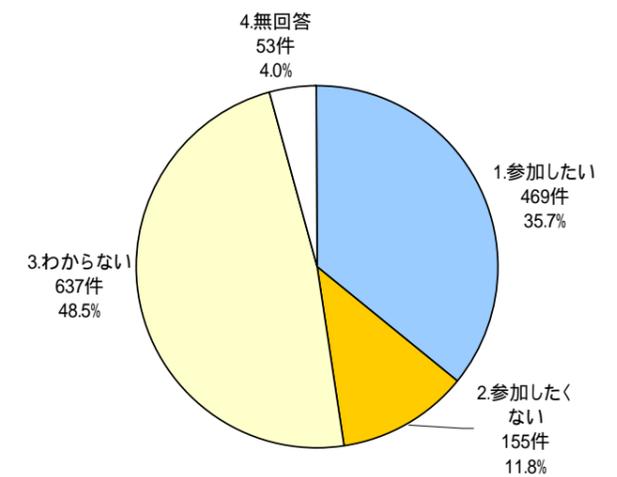
問30 あなたは住民による主体的なまちづくりへの参加について、どのようにお考えですか。該当するものを1つ選び、番号に をつけてください。

結果の概要

•住民によるまちづくりへの参加意識は、「参加したい」という回答も多いが、「わからない」という回答が約5割をしめている。

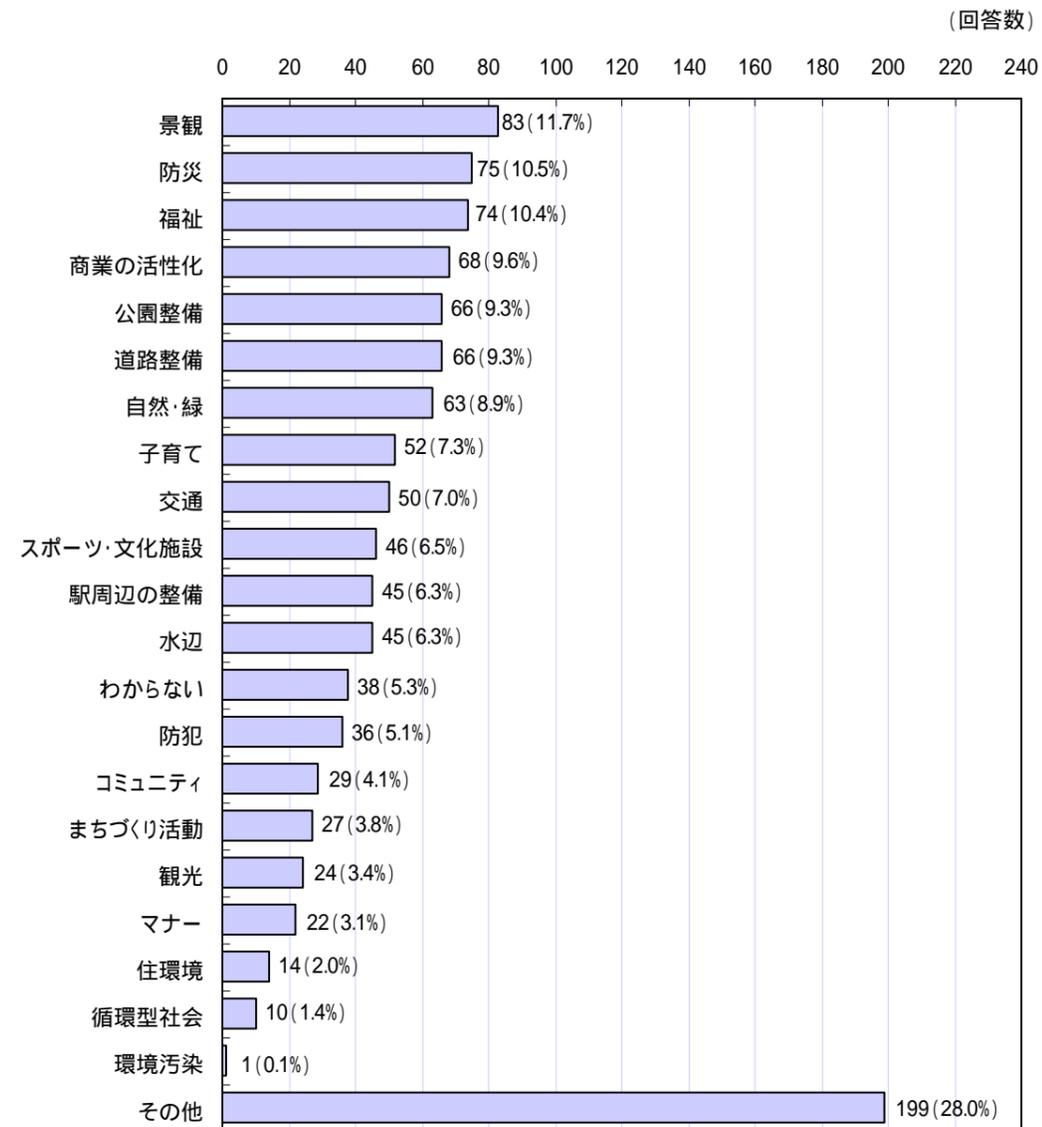
•前設問で、「話し合うための機会や情報・場所の提供」が最も多くなっていることとあわせると、住民による主体的なまちづくりが具体的にイメージが把握できていないことが、この2つの問の回答割合に示されていると思われる。

•住民による主体的なまちづくりを推進していくためには、まちづくりを知るための情報提供や機会の創出が必要であると思われる。



8. 自由意見

問31 あなたは、他の東京23区と比較して、まちづくりの分野で品川区にも取り入れるべきことはどんなことだと思いますか。自由にお書きください。



()内は、問31の回答者数(711人)に対する回答数の割合